

令和3年度 三島市議会 ICT推進検討特別委員会 視察報告書

1 視察日程

令和3年4月15日（木）

2 視察先及び調査事項

御殿場市議会

議会におけるタブレット端末導入などのICT推進の取り組みについて

3 視察参加委員

委員長 佐野 淳祥

副委員長 宮下 知朗

委員 野村 諒子

委員 村田 耕一

委員 古長谷 稔

委員 藤江 康儀

委員 河野 月江



4 報告内容

(1) 概要

御殿場市議会では平成26年9月からタブレット端末を活用した議会運営について調査検討を開始し、議会運営委員会による先進地視察、タブレット体験会の実施等を経て平成29年12月からタブレットを活用した議会運営を行っている。

導入にあたっては任意の委員会であるICT化推進委員会が調査、研究を行

い、タブレット端末についてはiPad Proの12.9インチのセルラーモデル、電子会議システムとしてSideBooks、グループウェアとしてdesknet's NEOを導入した。iPad ProについてはA4サイズがほぼ原寸大で見られるため資料閲覧のストレスが少ないことから、SideBooksについては紙をめくるイメージで資料の閲覧ができ、文字の入力やメモ等も簡単なことから、またグループウェアについては3商品を試用比較する中で選択したとのこと。ただし、グループウェアについては導入してみたところ、実際の使用頻度が少なかったことから、移行期間を設けて令和2年11月から無料版LINE Worksに切り替えたとのこと。

導入にあたっては、当初は業者による利用方法の研修会を実施し、その後は議員同士で教えあう操作研修会を開催し、端末操作に苦手意識のある議員も使えるようにしたとのこと。運用上の取り決めとしては「御殿場市議会情報通信機器使用基準」を策定し、会議での禁止事項、遵守事項等を定めているが、基本的には議員の良識にゆだねる考え方である。

導入した効果としては、予算書・決算書以外のほぼすべての資料は電子化できたということだが、これはあくまで副次的なものであり、大きな効果は①会議の効率化、②資料の蓄積が容易になった、③情報共有が容易になった、の3点である。

今後の課題としては、改選もあったことから、議員間の習熟度の差がありその差を埋めていく取り組みが必要なこと、資料のクラウド上の保存期間の検討、オンライン会議開催に向けての取り組みなどが



あるとのことであった。

質疑応答においては、三島市議会での導入に向けての細部にわたる質問に対して、御殿場市議会での事例を丁寧にご教示いただいた。

(2) 所感

(佐野委員長) タブレット導入には、委員会や本会議、事前準備で、機能等の使い勝手に不安があったが、御殿場市議会では、全ての議員がタブレットを十分に活用している実例を説明いただき、本議会でも自信を持って推進していくことが可能と確認できた。

(宮下副委員長) これまでイメージすることの難しかった、アプリケーションソフトの活用による期待効果を具体的に確認することが出来た。「導入して終了」ではなく、導入以降より有意義な活用を模索・検討していくことが重要と感じる。

(野村委員) 高齢の議員も含め全員に同時に導入を進めたようだが、大きな混乱もなく進められたのは議員間で教えあった成果だと感じました。ソフトの導入に関しては、緩やかな基準を設けて許可した方が、事務局の負担も減ると思いました。

(村田委員) 電子会議システムは作業の効率化やわかりやすい情報発信につながり、またグループウェアのLINE Works等で議会としての共通認識がはかれることが確認でき、できるだけ早い導入が必要であると感じました。

(古長谷委員) 検討を始めて3年目で委員会を設立し、4年目に導入。「亀さん大作戦」と名付けて、ゆっくりの人に合わせて皆で一緒に足並み揃えて進めるという方針が、高齢議員にも着実に活用されている秘訣と感じました。丁寧な説明と質疑応答に感謝いたします。

(藤江委員) タブレット導入効果について質疑応答の上、会議の効率化・資料の蓄積・情報共有についてより理解した。いずれにしろ今後導入後に起こる問題や諸課題を精査することが必要であり、個人的には習うより慣れよである。

(河野委員) 身近な議会での同じ立場からの助言に、本課題が非常に現実味を帯びた印象。勝間田委員長の「亀さん作戦」の話が大変印象的で、「一步ずつのボトムアップこそ結果的に最大の効果を生む」ことを、肝に銘じ取り組みたい。